



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！

歯周病が全身に影響を及ぼす可能性について

「歯周病にかかって、もし、歯を失ったとしても、そのときは歯科で入れ歯などを入れれば、結局また噛めるようになるから大丈夫」などと、歯周病を放ってはおけない事実がわかってきました。

歯周病が歯科以外の医科で扱う病気にまで関連して、全身の健康に悪影響を与えることがわかってきたからです。長期にわたって追跡調査した研究結果から、進行した歯周病は喫煙や高コレステロール血症に比べて、心臓発作や脳卒中を発症するリスクが高いことがわかってきました。

歯周病にかかると、歯周病菌によって口の中の歯ぐきに炎症を引き起こします。このときの炎症物質や菌自体が歯周ポケットから歯周組織内部に侵入し、これらが血流を通して全身に運ばれることで、様々な臓器に炎症反応を引き起こすということが報告されています。この歯周病に伴った全身臓器における炎症が糖尿病、妊娠合併症の慢性疾患や心臓発作、脳卒中を含む心血管疾患などに関連すると言われています。

このように全身疾患のリスクを高める可能性がある歯周病ですが、対処法はあります。それは丁寧で確実な口腔清掃の継続です。

ポイントは歯周病だからと言って歯ぐきだけに気をとられがちですが、口の中の細菌への対策ですので、毎日の歯と歯ぐきのセルフケアが肝心です。ただし、歯並びが悪くて清掃しにくいなど、案外セルフケアだけでは十分に清掃できていない場合も多く見受けられます。毎日のセルフケアに加えて、少なくとも年に2回程度は定期的に歯科医師や歯科衛生士による、プロフェッショナルケアを受けていただくことをおすすめします。

歯の状態がより健康な方は、全体的な医療費も少なくなる傾向が分かってきました。

私達歯科医師は、歯周病のリスクを少なくするお手伝いができます。

あなたも
「歯科通」に
なれる？

歯医者が出題する“歯とお口”のクイズ



5月2日は「しかいしきねんび歯科医師記念日」です。これは、歯科医師としての義務や資格などを取り決めた「せいてい歯科医師法」の制定を記念し、日本歯科医師会によって60年前（1957年）に定められました。さて、2014年（平成26年）12月末までの届出によると、全国の歯科医師の数は10万3972人だそうです。そこで今回はこんな問題を出題！

Q 歯科医師全体で女性の割合はどれくらいでしょうか？

1 約1割

3 約3割

2 約2割

4 約4割

